

概要・目的

本県におけるグローバル教育では、生徒が授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒が学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、平成30年度をイメージして協議する。

P

平成29年度の当初計画

取り組み① 平成30年4月中学校開校に向けての準備

- a) 広報活動（学校説明会・体験セミナー、パンフレットなど）
- ・学校説明会H29年度 7月、10月実施予定
 - ・セミナー年間4回（5月6年生、6月5、6年生、8月、11月5年生以下を予定）
- b) IBワークショップ
- ・高知県にてH29年8月16日～18日にMYP全教科とTOKを予定。基本的に県内教員には文科省の助成有り。
 - ・管理職は12月ワークショップを開催し参加予定
- c) 開校に向けた事務手続き、物品準備、教科書選定等
- d) 入学生の把握、生徒サポート
- ・中学生理解の研修（年間4回）
 - ・合格者を対象に小学校からの引継ぎ（3月中）

取り組み② 授業（MYP/DP）研究

- a) テーマの決定およびユニットプランナー作成と実用化に向けた研修
- ・作成、第1稿完成（中1：6月、中2：3月）
 - ・講師を迎えた研修（年間4回）
 - ・高知南中学校における授業研究（2学期）
- b) 総合的な学習の時間（個人研究）に向けた指導計画
- c) IB教育の研究と理解促進
- d) 東京学芸大学附属国際中等教育学校における研修

取り組み③ IB（MYP/DP）候補校、認定校申請準備

- a) 平成30年4月1日候補校申請に向けての申請準備
- 12月：教育委員会内決裁 2月：申請費用支払い
アドバイザーによる定期的な内容確認

取り組み④ 英語力強化の研究

- a) MYPの実践を通じた英語力について研究
- b) 幅広い学力層に対応する手立て
- c) 英語ネイティブのサポート
- d) 教科横断的な学びを意識した指導計画
- e) 英語に親しむ環境づくり

D

平成29年度の取り組み状況

取り組み① 平成30年4月中学校開校に向けての準備

- a) 広報活動
- ・学校説明会：H28年度延べ1380名、H29年度延べ498名、体験セミナー H29年度5、6年4回延べ365名。H28年度5、6年生5回延べ600名に実施の他、H28年度第2号パンフレットまで発行
 - ・H29年度7月学校HP立ち上げ。H29年12月に制服や校章を紹介したリーフレットを発行。
 - ・高知西高校内での高知国際中に関する検討事項相談や決定事項の共有。IBに関する理解促進。
 - ・塾等での個別説明。帯屋町チェントロでの制服お披露目会&説明会（12月）。
- b) IB公式ワークショップ
- ・IB公式WSへの参加：H29年までに高知南中・高知西高の教員から、MYP全教科講座2名以上受講
 - ・H29年8月と12月にIB公式WS開催。（MYP9講座（各教科）、DP1講座、171名参加）
- c) 開校に向けた事務手続き、物品準備、教科書選定等
- ・教材の確定、ICT、教室環境整備、教務的な書類などに必要な物品のリスト化、請求手続きなどを順次進めている。
- d) 入学生の把握、生徒サポート
- ・中学生理解についての研修（高知大学鹿嶋真弓准教授）平成29年度5月、11月、12月x2回、実施。
 - ・高知南中学1年生対象の合宿参加（4月）、授業参観（英語、数学、理科）、授業実践（理科・英語）
- 生徒用ガイドブックの内容、4月の宿泊研修、総合の計画に反映

取り組み② 授業（MYP/DP）研究

- a) 中学1年生全教科ユニットプランナー作成。第1稿完成（6月）、検討改善
- ・クインシー亀田氏による指導のもと、精度を上げ、開校後も持続するための研修を実施。（4月、5月、8月）→バディ制を活用し、複数の担当者による授業設計を実施（試行）
 - ・高知南中学校において、探究型授業の推進についてルーブリックの協議等授業研究と実践。（理科・英語）中学生の躓きに対する指導や、高校での評価を考える機会となった。
- b) 総合的な学習の時間を軸に全教育活動を計画
- c) 札幌開成高等学校視察、聞き取り。（7月）
- ・道徳、外国語教育、次期学習指導要領の改訂ポイント、生徒の指導等、MYP授業等
- d) 東京学芸大学附属国際中等教育学校長期派遣教員7名（国語2名、数学1名、理科1名、英語1名、体育1名、美術1名）研修中。（H28年度までに英語1名、理科1名、社会1名終了）
- ・H29年度より短期派遣研修実施（デザイン、音楽、英語・学校運営全般）

取り組み③ IB（MYP/DP）候補校、認定校申請準備

- ・申請書、アクションプランは決定事項を加筆しながら作成（日本語・英語）
- ・クインシー亀田氏を迎え、内容の確認を兼ねた学習会を実施（4月、5月、8月）
- ・申請書類についてデニス・スタンワース氏よりアドバイスをいただく（12月、1月）

取り組み④ 英語力強化の研究

- a) MYPの実践を通じた英語力について研究 中高の学びの接続を意識した教材研究（小学校外国語の方向性、高知県、高知南中学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校の研究内容、教材等の情報収集等）と評価研究
- b) 幅広い学力層に対応する手立て 小中学校の授業参観と協議への参加（5月高知南中学校、6月久礼小中学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校での短期研修Ⅱ、8月、9月評価について南中学校と協議
- 10月～11月英語の授業を担当予定の英語ネイティブ教員と共に視察をし、その後の実践に反映している。
- ・基礎力を補う手立ての準備（副教材の確定、辞書指導、文字指導等導入段階の指導計画等）
 - ・生徒の言語背景の事前調査を作成した。
- c) 英語ネイティブのサポート 授業研究や評価研究を共に行い、視点を共有。英語授業の担当予定の英語ネイティブ教員や英語科の教員と評価勉強会を複数回実施。東京学芸大学附属国際中等教育学校の英語科授業を英語講師も参観。西高英語科の授業にアレンジして実践している
- d) 教科横断的な学びを意識した指導計画 総合的な学習の時間（個人研究）を支える教科横断的な英語指導の計画。教材の検討中。英語で研究論文を書くことをゴールに6年間のステップを作成した。
- e) 英語に親しむ環境づくり 環境づくりのための予算計画を提出済み

C

A

課題（●）と今後の取り組みの方向性（→）

取り組み① 平成30年4月中学校開校に向けての準備

- a) 広報活動
- 「評価（学力観）」について、入学対象の保護者、本県の教職員への周知が充分ではない。
 - 生徒用ガイド等の説明ツールを作成、生活面、学習面ともによりわかりやすいことばになるよう改善を重ねている。HPでの公開や開校後のミーティング等で、誰でも説明できるように準備をする。【年度内完成】
 - 県の課題解決や円滑な統合に向け、評価を変えることが重要であると考え、モデル校としても役割を果たすため、引き続き評価の研究をする。
 - 開校後も入学希望者とその保護者、県教育関係者向けに、公開授業やオープンスクールを実施し、理解啓発を進める。【開校後も継続】
- b) IB公式ワークショップ
- 特に「知の理論」TOKに関しては、国際中高に関わる教員は受講をしていきたい。
- c) 開校に向け、事務手続き、物品、教科書選定等
- 教科書や副教材について小中学校課等と連携し県の課題を把握したうえで選定する。また授業づくりの参考とする。【年度内完成】
 - 県内大学の図書館との連携によって、図書の実用を図りたい。（特に中学生のための書籍やDPの専門性の高い教科など）生徒のタブレット端末から県立図書館のオンライン登録をする。【開校後も継続】
- d) 入学生の把握、生徒サポート
- 入学者について、小学校を訪問して、情報収集をする。【3月実施予定】
 - 保護者ワークショップなどによる家庭との連携を強化する。【開校後も継続】
 - 学級経営をイメージしながら特別支援に関して研修を行った。開校後もケーススタディが必要であると痛感した。本校教職員に対して、高知大教授を招聘し特別支援教育の研修を設定する（相談済み）。【開校後も継続】

取り組み② 授業（MYP/DP）研究 と ③候補校、認定校申請準備

- MYP 授業計画は進んでいるが、DPを見通した計画としては不十分であり、各専門分野やTOKの研究が充分ではない。
- 授業計画の課題点が明らかになったため、批判的に授業を見直し授業者が指導観を鍛える機会を確保していく。TOKは教員全員が校外で研修する。【開校後も継続】
- DPの指導者、特に英語で指導できる教員の育成が必要。先進校やIB教員養成の大学に情報提供など協力を依頼する。【年度内完成】
- 定期的に外部アドバイザーに確認をとりながら仕上げる。【3月完成】
- 先進校からの情報収集（DPの日本語テキストがあまりないため、準備に不安を感じている。DP授業者としての具体的な準備、MYPとの接続の視点など）。【開校後も継続】

取り組み④ 英語力強化の研究

- a) MYPの実践を通じた英語力について研究
- 教員が評価力（課題作成力、世界基準のルーブリックを適切に活用できる力）を付けることが必要。授業者の主観やこれまでの感覚を一度取り除くことが困難だった。【年度内毎週1回程度の勉強会で評価体験を重ねる】
- b) 幅広い学力層に対応する手立て
- 客観的なデータに基づいて生徒の英語力（4技能）を測り、クラス分けやIBの6つの段階に分けることが必要であるため、4技能を測れる外部試験の全員受験を計画している。【年度内確定】
 - 言語背景の事前調査を合格者登校日配付（入学式提出）で、適切なサポートと評価ができる環境づくりをする。【入学時】
 - DPへの接続のレベル設定について、先進校から助言を受けている【開校後も含む】

平成29年度 到達目標

- ・IBMYP候補校として認定を受けるに値する準備を3月までに完了（申請書類の完成は2月予定）
- ・地方の公立学校がIB教育を実践することの意味をより具体的に県民に理解してもらう
- ・県全体への還元を旨とし、IB（特に評価）について県内教員に学びの場を設定